令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 片柳中学校 ）　　学校番号　２３２

【様式】

目指す学校像	「地域から信頼され、地域とともに歩み、生徒・教職員一人ひとりの自己実現・Well-being が図れる学校」

重点目標	
	１　非認知能力も含めた真の学力の向上 ２　安心・安全な環境の下、心豊かな生徒の育成 ３　コミュニティースクールを核とした地域と一体となった教育活動の展開 ４　持続可能な新しい学校の在り方を求める教職員の育成

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和７年３月３日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○令和５年全国学力・学習状況調査では、国語、数学、英語共に正答率は全国平均にあと少しのところである。 ○授業中多くの生徒は真面目に取り組んでいるが、教科や内容によって個人差が大きい。 ＜課題＞ ○全国学力・学習状況調査の結果から国語は漢字、古典に関する事項にやや課題が見られる。数学は図形にやや課題が見られる。英語は情報の読み取り、書くことにやや課題が見られる。 ○学校評価「授業でできた、わかったという実感が持てたか」が低下傾向にある。	・市学力テスト市学習状況調査結果(質問紙の結果も含む) ・情報活用能力と読解力の向上	①朝学習の充実とスタディサプリやドリルパーク等の情報端末を活用した基礎学力の向上、全教科単元末テストを実施し、日々の家庭学習の充実を図る。(個別最適な学び) ②様々な情報を収集し内容を吟味し、要約したり、説明したりすることに全教科等で取り組む。(NIE 教育の推進,よむ yomu ワークシートの活用	①学校評価「授業でできた、わかったという実感が持てたか」95%以上。 ②学校評価「家庭学習をしていますか」80%以上。 ③学びの指標「ICT の活用」3.2 以上。 ④学校評価保護者アンケート「学校は ICT を授業で活用していますか」85%以上。	方策①朝学習、情報端末の活用、単元末テストは計画通り実施。単元内自由進度学習も数学で実践し、個別最適な学習スタイルができ始めた。②言語活動も全教科で取り組み、よむ Yomu ワークシートの活用も数回行われた。それらの結果指標①前年度比+2.3%で上昇し92%、指標②保護者回答は前年度比+3%上昇したが、生徒回答は－4.8%。指標③3.02。授業における ICT の活用はまだ道半ばである。指標④86.7%達成。ICT 活用の回答は上昇。	A	ICT の活用や教師主導の教え込みから生徒主体の学び(個別最適な学び)に変えていくことが生徒の学力や意欲の向上に資することが浸透しつつある。学びの質の向上をめざし、２年後の研究発表を見据えた研修の充実を図りたい。中間テスト廃止に伴う日々の家庭学習充実について家庭への啓発と ICT活用も含め引き続き進めていく。	評価項目の達成状況については、具体的方策の推進によりおおむね成果に結びついていると思われる。さらに、今年度に得られた成果並びに生徒の向上意欲を高めるため、「次年度への課題と改善策」を確実に推進していただきたい。
		・学ぶ意味と楽しさを実感させているか ・実社会の出来事に関心を持ち、探究的活動に取り組めているか	①総合的な学習の時間でキャリア教育 STEAMS 教育を融合した活動に取り組む。 ②教科横断的で発展的学習内容を教科内で実施。特に生徒が自ら課題見つけ探究する生徒主体の学習活動に取り組む。(個別最適な学びと協働的学びの一体化)	①学校評価生徒アンケート「授業で課題を考えたり、自ら解決したりすることによく取り組めたか」90%以上。 ②社会的な課題と連動したテーマの着実な実施（総合的な学習の時間で各学年１テーマ以上）。 ③各教科で教科横断的で探究的な学びを実践。（各教科１単元以上）	方策①総合的な学習の時間とキャリア教育、STEAMS 教育の融合は推進した。指標①生徒アンケートでも 91.3%達成。授業での課題の設定や生徒主体の解決など、主体的、対話的な学びが浸透しつつある。指標②③1 年は PwC 社、地域新聞社によるキャリア教育、2 年は片柳エンジン、3 年は修学旅行での STEAMS の視点での課題解決学習、理科、数学、社会の教科横断的実践を進めることができた。	A	方策①については、全教員に共通認識が持て、その意味や意義についても理解が進んできた。生徒アンケートの結果からも裏付けできる。②についても各学年での実践は順調に進めることができた。特に片柳エンジンは地域の事業所と連携が図られ大きな成果が得られたと考えている。各取り組みを次年度以降も着実に進めていくとともに、レベルアップを図っていきたい。	
2	＜現状＞ ○令和５年全国学力・学習状況調査、質問紙「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「自分にはよいところがある」肯定的回答は全国平均を 10Ｐ以上上回っている。 ○学校評価生徒アンケート「生活の決まりを守って学校生活を送っている」肯定的回答 97%。 ＜課題＞ ○令和５年全国学力・学習状況調査「将来の夢や目標を持っていますか（肯定的回答は全国より２P 下回る） ○不登校傾向生徒の増加、心の不安を訴える生徒の増加。アンケート調査だけでなく常日頃からの声掛け、注意深い観察、教職員同士の密な情報共有、関係機関との日常的連携が必要な状況である。	・特別活動、学校行事等体験的活動の充実により、自己決定の場を多く設定できているか。	①授業や学級会、生徒会活動で自己決定場面を多く設定し、生徒の自己肯定感や自己効力感を高める。 ②企業も含め様々な分野から社会人講師を招聘しキャリア発達を促す体験的活動を多く実施し、将来への夢や展望を持たせる。(未来くるワーク、未来くる先生、片柳エンジン等) ③①②を通し好奇心、創造性、協調性等、非認知能力の育成を図る。	①学校評価生徒アンケート「学校行事に積極的に取り組んでいますか」95%以上。 ②学校評価生徒アンケート「仲間のよさを理解し、お互いを認め合っている」98%以上 ③市学習状況調査「将来の夢や目標を持っていますか」70%以上。	指標①97.2%②99.1%③72.1%となり、概ね目標値は達成。特にほぼ全ての生徒が仲間のよさを理解しお互いを認め合っている点はうれしい限りである。また、将来の夢や希望も３年生では 80%であり、昨年よりも改善。この原因として１年からのキャリア教育の積み重ね、生徒主体の授業、学級会、生徒会での自己決定の場面を増やすこと、様々な立場の社会人講師による授業などの成果と考える。	A	設定した目標値は全て上回ることができたことはよかったと言える。課題として、生徒主体の活動については時間と準備が必要であり、教員の労力に負うところが大きい。なるべく、３年間を見通し、各学年が同じ活動に取り組み、準備の共通化を図ること、外部講師の依頼も早めにまとめて行うなど計画的に進めていきたい。	「将来の夢や目標をもっていますか」７０%以上となっているが、あまり心配する数字ではなく、高校入学以降には具体的な目標が見えてくると思われる。片柳中学校は校長先生並びに教職員が生徒を地域との連携を深める活動を推進しており、生徒もその活動に意義を感じるとともに積極的に対応していることについては大いに評価している。
		・生徒一人ひとりに寄り添い、大切にする教育支援がなされているか。	①毎日のスクールダッシュボードの活用と生活記録ノートの生徒との交換を重視し心の変化に迅速に対応する。 ②年２回の保護者との三者面談、学期ごとの二者面談、アンケート等生徒の心の変化に寄り添う。 ③校内教育支援ルームを設置。専門的外部機関との連携を積極的に推進。	①学校評価保護者アンケート「お子様の困り事や悩み事に対し学校は適切に対応していますか」85%以上。 ②学期ごとの各種面談、いじめ、心と生活アンケート調査等の確実な実施。 ③学校評価生徒アンケート「片柳中は落ち着いた雰囲気ですか」85%以上。	方策①毎日の PC への記録は着実に実施し、生徒のサインを見取る体制は確立している。指標①83.0%②年間３回の二者面談、２回の三者面談、各アンケート等予定通りに実施③83.7%。生徒アンケート「困ったことや悩み事など相談できる大人はいますか」も 94.8%で、生徒に寄り添った適切な教育支援がなされていると考える。	B	校内支援教室である Sola るーむを開設し、校内での居場所づくりも進めているが、そこへ通えない生徒も複数いる。相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、市教育相談室、区支援課、児相等連携を一層進めていく。	
3	＜現状＞ ○学校運営協議会で役割分担を実施し、地域と学校ができることを検討。委員と生徒との意見交換を実施。 ○学校評価生徒アンケート「ボランティア活動に参加したことがありますか」肯定的回答 88% ＜課題＞ ○小中のシステムや立地の違いによる物理的な課題が継続している。 ○土日の部活動地域移行が実施されたことで生まれた課題の整理と解決策の検討。	・義務教育学校に向けて小中一貫教育のさらなる推進がなされているか。	①夏季合同研修会、週 1～2 回の中学校教員の派遣や授業参観、児童・生徒間交流を推進。 ②総合的な学習の内容として地域ボランティアを位置づけ、地域貢献に関する学習活動を実施。	①学校運営協議会委員と生徒との意見交換で生まれた行事等の着実な実施。 ②学校評価生徒アンケート「今年度ボランティア活動に参加したことがありますか」95%以上。	方策①小中の連携については、ほぼ計画通り実施できた。学校運営協議会での議論から夏祭りの由来についての広報、地域安全マップ、通学路清掃活動など具体化することができた。②地域ボランティアについては育成会祭りの中止が影響し、-9%で残念であった。	A	小中の連携も進めているが、小中の教員同士の日常的交流ができる時間的余裕がないことが一番の課題である。学校運営協議会も年間開催回数を多くし、教員、児童生徒が参加し、議論していく必要を感じている。	地域活動に中学生を積極的に参加させたいとの学校の姿勢により、生徒が進んで参加していること、地域として中学生が頼もしくい存在であることを現実に認識する機会となっている。また、学校運営協議会委員と生徒の意見交換会でも、出席した生徒がグループの意見をまとめ、堂々と発表する姿は頼もしく感じている。
		・部活動地域移行に関する課題が解決されたか。	①かたやなぎクラブと連携し部活動地域移行に向けた課題の整理、方向性の策定。 ②部活動や地域行事等新しい支援や協力の形を模索していく。	①学校評価保護者「学校は地域と一体となって教育活動を進めていますか」90%以上。 ②部活動地域移行アンケートの生徒、保護者の満足度 80%以上。	指標①-2.6%②生徒 86.8%保護者 75.0%。保護者への理解を一層進める必要があり、１月に保護者対象の部活動地展開説明会を開催。	B	地域展開について持続可能な形をどう作っていくか一番の課題。地域からの人的支援もぜひお願いしたい。	
4	＜現状＞ ○働き方改革への理解は進んできた。しかし、授業スタイルや行事の抜本的見直しなど、新しい発想の下での改革・改善には至っていない。 ＜課題＞ ○生徒主体の指導観、評価観への転換。教えるから支援、ファシリテーターへ。 ○ICT を活用した個別最適な学びや協働的な学びの一体化について学ぶ時間の確保。 ○業務のより一層の効率化、軽減が必要。	・新しい教育情報の収集に努めているか。 ・業務のより一層の効率化と削減が図られているか。	①全国的な研究会や講演等へのオンラインも含め積極的な参加。最新の教育情報収集し、自己研鑽するための時間の確保。 ②ICT 活用により業務の効率化を図る。 ③一層のペーパーレス化、ICT 活用による会議の効率化と時間短縮、計画的年休や定時退勤日の確実な実施。	①教職員人事評価、研修に関する自己評価Ａの教職員が 50%以上。 ②教育課程の改善について教職員学校評価で肯定的回答 80%以上。 ③印刷関係用品の使用量(用紙、インク、マスター等)の 20%以上の削減。 ④全教職員平均年休取得率 75%以上。	方策①研修については大学、国、県、民間団体等が主催する研修会に参加した教員は増加したが、そこまでの余裕がない状況。②ICT 活用はかなり進み、テスト採点時間、会議時間の短縮など成果が出ている。指標①～③については②を除き、数値目標には届かず。④ほぼ達成。月１回の計画的年休はかなり浸透した。	B	生徒主体の指導観や評価観の転換は意識としてはかなり進んだと考える。ICT 化については、AI 活用も含めてさらに研究を進めていく必要がある。ソフト活用には金銭的負担が生じる点も課題である。業務改善についても意識は向上しているが、物品の削減などさらなる具体的な成果につなげていく努力が必要である。	教職員の働き方改革への方向性は示されているが、十分な成果達成へは多くの業務を抱えるなかで、道半ばといえる。しかし、生徒に夢と希望を与える教育推進のため、教職員に最新の教育情報収集確保につながる時間の確保に努力していただきたい。